

授業科目名： 看護研究特論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢庭さゆり 山田雅夫、木下香織 礪本暁子、矢嶋裕樹 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ ①看護の質向上に寄与する看護研究の理解を深める。 ②研究のプロセスと方法が理解できる。 ③各自の研究計画書が具体的にイメージできる。			
授業の概要 研究における理論・概念枠組み、研究デザイン、方法について理解を深め、量的・質的研究の原則、特徴を学び、研究計画書、研究倫理審査、研究論文作成までの研究プロセスを理解する。 多様な研究デザインの先行研究を材料に、課題演習、特別研究を進めるための基盤を作り、学生の個別的なテーマを深める機会とし、今後の研究活動が効果的に実施できることを目標とする。			
授業計画 第1回：看護における研究の意義と目的 (矢庭) 第2回：研究プロセスの概観・研究デザインの概要 (矢庭) 第3回：研究問題の設定と研究仮説 (矢庭) 第4回：研究における文献検討の意義 (木下) 第5回：看護における主要な概念と実践理論 (矢庭) 第6回：実験研究の手法 (山田) 第7回：量的研究のデザイン (矢嶋) 第8回：量的研究の研究プロセス (矢嶋) 第9回：質的研究のデザイン (礪本) 第10回：質的研究の研究プロセス (木下) 第11回：看護研究結果の報告 (礪本) 第12回：看護研究における倫理 (山田) 第13回：看護研究領域における研究論文のクリティークの方法 (矢庭) 第14回：看護研究領域における研究論文のクリティークの実際 (矢庭) 第15回：研究計画の立案 (矢庭)			
テキスト 特にテキストの指定はしない。			

参考書・参考資料等

- ・ D.F. ポーリット、C.T. ベック著、近藤潤子訳：『看護研究 原理と方法 第2版』、医学書院
- ・ 黒田裕子著：『黒田裕子の看護研究 Step by Step』、医学書院
- ・ アメリカ心理学会（APA）著、前田樹海他訳：APA 論文作成マニュアル、医学書院

学生に対する評価

授業中の発言回数や内容（50%）、プレゼンテーションの内容(50%)

授業科目名： 看護実践と倫理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：土井英子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標：看護実践上の倫理的概念であるアドボカシー、ケアリング、責任、協働を基盤にした、倫理的ジレンマおよび倫理的問題について多様な視点から検討できる。			
授業の概要：①看護実践する上で必要となる看護アドボカシー、②チーム医療を行う上での看護の専門性に関する研究、③個人情報保護、④看護研究を行う倫理、⑤看護職の倫理的ジレンマなど対象の尊厳を護る専門職としての看護倫理を教授する。			
授業計画			
第1回：看護実践する上での看護概念			
第2回：バイオエシックスと看護倫理について			
第3回：看護実践とインフォームド・コンセント			
第4回：看護実践と患者の自己決定権（患者中心の医療とは）			
第5回：看護実践と個人情報保護の遵守			
第6回：ケアリングと看護倫理（ケアの倫理と正義の倫理）			
第7回：療養上の世話と看護アドボカシー			
第8回：多職種連携における看護職の役割			
第9回：看護実践上の倫理的課題1（病名告知とチーム医療）			
第10回：看護実践上の倫理的課題2（余命告知とチーム医療）			
第11回：看護実践上の倫理的課題3（医療的看護実践とチーム医療）			
第12回：看護実践上の倫理的課題4（延命治療と倫理的コンサルテーション）			
第13回：看護実践上の倫理的課題5（終末期医療における倫理的課題）			
第14回：看護研究と倫理（看護研究における倫理的ジレンマ）			
第15回：人間としての尊厳を尊重できる倫理的態度			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			
浜渦辰二、宮脇美保子:シリーズ生命倫理学第14巻看護倫理、丸善出版会			
学生に対する評価			
プレゼンテーション・資料内容(50%)、最終課題レポートの提出内容(50%)			

授業科目名： 看護教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：上山和子 塩見和子 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 看護実践・看護教育において必要な指導方法や教育評価のあり方を学修する。また、看護教育指導者としての教育方法の理解を深める。看護基礎教育の構造の理解を基に講義計画や評価を実践できる。			
授業の概要 看護基礎教育の構造や教育方法について教授し、模擬講義を体験することで、看護学生への教育指導方法の理解を深める。			
授業計画 第1回：看護教育の基礎的理論1（学習理論；認知主義）（上山） 第2回：看護教育の基礎的理論2（学習理論；構成主義）（上山） 第3回：看護教育制度の変遷 1（看護教育制度の成り立ち）（上山） 第4回：看護教育制度の変遷 2（看護教育制度の特徴）（上山） 第5回：看護専門職としてのアイデンティティの確立に向けた教育方法（上山） 第6回：看護における教育方法の構築1（授業での形態；講義・演習・実習）（上山） 第7回：看護における教育方法の構築2（授業で用いられる問題解決学習）（上山） 第8回：看護における教育方法の構築3（実習で用いられるモデリング・カンファレンス）（上山） 第9回：教育目標と評価（形成的評価・到達度評価）（上山） 第10回：指定規則・中教審答申の理解（看護教育機関別による教育目的や教育環境の違い）（上山） 第11回：看護基礎教育の教育目的・目標の設定とカリキュラムの構築（塩見） 第12回：カリキュラム構築と授業計画（単元の授業計画立案の作成）（塩見） 第13回：単元に基づいた授業計画立案作成（塩見） 第14回：模擬授業（立案した授業計画を基にした実践展開）（塩見） 第15回：教育評価とまとめ（学生の授業評価と自己評価）（上山・塩見）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等：舟島なおみ：看護教育学研究 発見・創造・証明の過程 第2版 医学書院			
学生に対する評価：討議への参加度（討議発表内容、発表回数）20%、プレゼンテーション（模擬講義を含む）資料内容（50%）、最終課題レポート30%			

授業科目名： 学校保健特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：郷木義子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
学校保健活動展開のために必要な知識のあり方を探求する。さらにチームとしての学校の視点から学校保健を担う教職員の役割を明確にし、子どもの健康問題の把握と理解、支援方法について探求する。			
①子どもの健康問題を多角的にとらえ、その支援の在り方を理解する。			
②チームとして学校及び家庭や地域との連携・協働について理解でき、教育的支援ができる。			
授業の概要			
学校保健の対象者である児童・生徒の健康問題とその支援についての方法について考察し、様々な役割が期待されている教員の役割について理解する。また近年の子どもの健康問題の深刻化、複雑化に伴う支援方法について考える。さらに学校保健の組織的な多職種、地域社会との連携の在り方について探求する。			
授業計画			
第1回：学校教育と学校保健			
第2回：学校保健に関する基礎的理論			
第3回：子どもを取り巻く社会			
第4回：子どもの健康課題と学校保健			
第5回：学校保健が担う健康教育			
第6回：健康課題を有する子どもへの支援			
第7回：地域保健と学校保健			
第8回：子どもの健康と安全管理			
第9回：多職種との連携			
第10回：論文講読（不登校、保健室登校）			
第11回：論文講読（子どもの虐待問題 いじめ）			
第12回：論文講読（ヤングケアラー）			
第13回：論文講読（児童生徒とメディア）			
第14回：論文講読（学校における感染症対策）			
第15回：学校保健の課題と展望			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			
郷木義子：新版 学校保健			

学生に対する評価

討議への参加度（討議の発表内容等）(20%)、プレゼンテーション(模擬講義を含む)・資料内容(30%)、課題レポートの提出・内容(50%)

授業科目名： 精神保健特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井上真一郎 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 中山間地域における全世代のこころと身体の健康を支援する地域包括ケアシステムを構想しマネジメントする能力を修得する。 全世代を対象とした精神保健医療福祉の現状と課題が説明できる。 ディスカッションをもとに地域に根ざした精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた課題が考察できる。			
授業の概要 全世代を対象としたこころと身体の健康について、より高度な専門職として必要とされる知識・技術を体系的に理解するとともに、課題を抽出することにより地域に根ざした精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを探究する。			
授業計画 第1回：精神保健・医療・福祉施策の流れ 第2回：発達段階における課題とその支援①母子の現状と課題 第3回：発達段階における課題とその支援②学童期・思春期の現状と課題 第4回：発達段階における課題とその支援③青年期の現状と課題 第5回：発達段階における課題とその支援④成人期の現状と課題 第6回：発達段階における課題とその支援⑤老年期の現状と課題 第7回：不安障害・発達障害・適応障害への支援と課題 第8回：依存症・ひきこもり・うつ・自死等へのアプローチと課題 第9回：コンサルテーション・リエゾン精神医学の実際 第10回：リエゾン精神看護の役割・機能 第11回：多職種チームによるリエゾン精神看護の実際 第12回：精神科在宅支援/アウトリーチの現状と課題 第13回：複合的・複雑困難な精神・福祉課題のある事例検討 第14回：中山間地域における精神保健医療福祉の課題 第15回：中山間地域における精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの提言			
テキスト 特に指定しない。適宜、講義資料を配付する。			
参考書・参考資料等 ・井上真一郎:せん妄診療実践マニュアル, 羊土社, 2019.			

・井上真一郎:大人の発達障害トリセツのつくりかた, 羊土社, 2020.

学生に対する評価

授業への参加態度・発言(30%)、課題に対するプレゼンテーション(30%)、最終レポート課題(40%)

授業科目名：統計学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢嶋裕樹 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
統計的モデル選択や尺度開発など、看護研究を実施する際に必要とされる統計学の知識や技術を学修する。また、汎用の統計ソフトを活用し、データの記述・要約を目的とした単変量解析から予測・分類を目的とした多変量解析までの一連の統計手法を修得する。			
授業の概要			
地域住民や児童、生徒、学生、高齢者、患者など、多種多様な集団を対象とした質問紙調査とデータ解析事例に基づき、健康問題の解決に役立つ理論・モデルの開発と検証のための一連の統計学的手法について教授する。また、健康の心理社会的要因及びアウトカムに関する尺度開発研究の成果を踏まえ、因子分析的手法等の概念の測定に不可欠な尺度の開発及び検証に必要な統計学的手法についても教授する。			
授業計画			
第1回：量的研究とは(量的研究デザインの種類と特徴)			
第2回：データの整理と要約（図表によるデータの視覚化）			
第3回：相関と回帰			
第4回：名義尺度データの検定（ χ^2 検定、McNemer検定、Cochrane検定等）			
第5回：順序尺度データの検定（Mann-Whitney検定、Kruskal-Wallis検定等）			
第6回：繰り返しのない分散分析（一元・多元配置分散分析等）			
第7回：反復測定データの分析（Rによる分析）			
第8回：効果量、検出力分析、必要標本サイズの計算			
第9回：重回帰分析（予測分析と要因分析）			
第10回：ロジスティック回帰分析（調整済みオッズ比と95%信頼区間の算出）			
第11回：尺度構成法(尺度の信頼性と妥当性の検討)			
第12回：主成分分析と因子分析（合成得点の算出、因子分析と尺度構成）			
第13回：構造方程式モデリング（SEM）による確認的因子分析			
第14回：潜在変数を用いた因果分析とモデル修正			
第15回：他の応用的な分析			
テキスト 神田 善伸：EZRでやさしく学ぶ統計学，中外医学社，2012			
参考書・参考資料等 授業内容を深めるために資料を配付する。			
学生に対する評価			
授業態度（20％）、課題レポートの成績（80％）			

授業科目名： 地域支援看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：金山時恵 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
地域の生活者である対象の健康の保持・増進に関わる健康課題に着目し、課題解決のための知識と技術を高め、地域支援に関する概念と理論を理解する。地域の生活者の健康づくりや地域づくりに向けた効果的な支援のあり方を探求する。			
授業の概要			
生活者個人の身体状況や健康レベルにあわせた健康と生活の関連性から捉えた適切な支援方法、さらに地域全体の健康づくりのための健康支援について探究する。			
授業計画			
第1回：健康レベルと保健行動			
第2回：セルフケア行動と保健行動			
第3回：保健行動と自己効力感			
第4回：ヘルスプロモーションとライフスタイル			
第5回：保健行動とセルフヘルプグループ			
第6回：保健行動とソーシャルサポート			
第7回：生活者としての個人及び家族、地域の健康と生活			
第8回：生活者としての個人及び家族、地域の健康と生活の課題			
第9回：現在社会における潜在的・顕在的健康課題と諸理論の概観			
第10回：健康の保持・増進に必要なセルフケア能力向上に関する支援方法の探求			
第11回：生活の場における健康の保持・増進と看護職の役割			
第12回：健康支援及び地域支援としての地域づくりに関する現状と課題			
第13回：健康支援及び地域づくりにおける支援に関する文献検討			
第14回：健康支援及び地域づくりに関する事例分析による検討			
第15回：地域支援看護学における研究課題のまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			
・Karen Glanz, Barbara K. Rimer編, 曾根智史訳：健康行動と健康教育, 医学書院			
学生に対する評価			
討議への参加度(討議発表内容、発表回数)20%、プレゼンテーション・資料内容50% 最終課題レポートの内容・提出30%			

授業科目名： 高齢者ケア特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木下香織
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
①高齢者とその家族の多面的・肯定的な理解ができる。 ②現代の高齢者の抱える課題が明確にできる。 ③看護専門職としての支援の課題と展望を明らかにできる			
授業の概要			
肯定的な高齢者観と多面的な理解、高齢者の尊厳を守る専門職役割を教授する。高齢者の生き方や死への向かい方など、高齢者を取り巻く社会的な変化や、高齢者虐待や孤立死、介護家族の疲弊、高齢者ケアに携わる看護職や周辺の専門職の課題を明確にし、要援護高齢者とその家族への支援について考える。また、認知症高齢者の尊厳に配慮したコミュニケーションなど、看護実践の振り返りを基礎に、高齢者の人権と権利擁護について考える。			
授業計画			
第1回：老いと老年期における健康の概念 第2回：高齢者と家族 家族役割の変遷と現代家族の課題 第3回：高齢者ケアに活用できる理論・概念①（レジリエンス、エンパワメント） 第4回：高齢者ケアに活用できる理論・概念②（ライフストーリー） 第5回：高齢者ケアに活用できる理論・概念③（コンフォート） 第6回：高齢者の健康と生活のアセスメント 第7回：認知症の高齢者へのケア・コミュニケーション①（パーソンセンタードケア） 第8回：認知症の高齢者へのケア・コミュニケーション②（ユマニチュード） 第9回：高齢者の社会的孤立と支援 第10回：高齢者と死 エンドオブライフケア 第11回：要援護高齢者と介護家族への支援 第12回：高齢者ケアにおける倫理的課題①（アドボカシー、エイジズム） 第13回：高齢者ケアにおける倫理的課題②（高齢者虐待、身体拘束） 第14回：高齢者ケアにおける倫理的課題③（意思決定支援） 第15回：高齢者と家族への支援の課題と展望			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			
・日本老年看護学会誌 ・日本認知症ケア学会誌			

- ・プリシラ・エバーソール，他：ヘルシー・エイジング，エルゼビア・ジャパン，2007.
- ・参考文献等を適宜、紹介する

学生に対する評価

授業への参加状況（ディスカッションとプレゼンテーション） 50%

最終課題レポート 50%

授業科目名： 地域ケアマネジメント 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢庭さゆり
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
①地域ケアマネジメントにおける理論・実践について理解できる。 ②地域ケアマネジメントにおける現状と課題が分析できる。 ③地域ケアマネジメントへの具体的な展開について探求できる。			
授業の概要			
ケアマネジメントに関する概念・諸理論・展開論を教授する。専門的援助関係の形成と相談援助の枠組みについて理解し、ケアマネジメントを必要とするあらゆる世代の対象におけるケアマネジメントのあり方を探究する。事例研究では、事例をもとにしたグループ討議を中心に進める。さらに、地域ケアマネジメントで重要な、多職種協働によるチームアプローチのあり方を課題として、地域ケアマネジメントへの具体的な展開について検討する。			
授業計画			
第1回：ケアマネジメントに関する概念・諸理論・展開論（基本的な理論、展開過程の確認）			
第2回：専門的援助関係の形成と相談援助の枠組み（ケアマネジメントにおける対人援助職としての基本原則の確認）			
第3回：支援を必要とする対象者と家族支援の方法論（システムとして対象を捉える視点について再確認）			
第4回：事例研究1（母子保健福祉領域におけるケアマネジメント実践課題）			
第5回：事例研究2（成人保健福祉領域におけるケアマネジメント実践課題）			
第6回：事例研究3（高齢者保健福祉領域、障がいおよび難病等におけるケアマネジメント実践課題）			
第7回：事例研究4（複合的課題を持つ対象におけるケアマネジメント実践課題）			
第8回：事例研究5（その他、学生の研究テーマに関するケアマネジメント実践課題）			
＊第4回～第8回：事例研究1～5をもとにケアマネジメントの検証			
第9回：ケアマネジメントにおける課題・国内外の研究動向の把握			
第10回：ケアマネジメント評価・効果研究（各種評価指標を用いた研究動向をもとに検討）			
第11回：協働モデルによるチームアプローチのあり方（多職種協働による効果の検証）			
第12回：地域におけるケアマネジメントの支援システム化			
第13回：地域ケアマネジメントシステムの発展・展開（地域包括的なケアマネジメントのあり方）			
第14回：地域ケアマネジメントにおける研究課題（論点および課題の明確化）			
第15回：まとめ（国内外の研究動向から自身の研究課題の明確化）			
テキスト			
特に指定しない			

参考書・参考資料等

- ・白澤政和: ケースマネジメントの理論と実際. 中央法規出版.
- ・ケアマネジメント学 (日本ケアマネジメント学会学会誌) および日本在宅ケア学会誌 (日本在宅ケア学会学会誌) を過去10年程度
- ・別途紹介

学生に対する評価

討議への参加度 (討議の発表内容、発表回数) (20%)、プレゼンテーション・資料内容 (30%)
課題レポートの提出・内容 (50%)

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：栗本一美
在宅看護支援特論	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 在宅看護の現状と課題を理解し、説明することができる。			
2. 在宅看護サービス提供者に関わる現状の課題を理解し、説明することができる。			
3. 実践事例をクリティークし、支援の在り方などを検討することができる。			
授業の概要			
現行制度における在宅医療・在宅看護の現状を理解し、中山間過疎地域で生活する在宅療養者とその家族への支援のあり方と課題を探究する。さらに、高齢化率の高い中山間過疎地域における在宅看護活動を理解し、在宅療養者と家族への支援方法と看護職の役割を教授する。			
また、訪問看護師の定着に向けての取り組みや人材育成について、訪問看護の質の確保について探究する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(在宅看護に関する文献検索の仕方など)			
第2回：現行制度における在宅医療・看護の現状と課題			
第3回：在宅看護の対象者(療養者)の特徴			
第4回：在宅看護の対象者(家族)の特徴			
第5回：在宅看護に求められる看護の視点			
第6回：在宅看護に必要なコミュニケーション技術			
第7回：在宅看護の対象者の生活に即した自立を促進するための看護実践のあり方			
第8回：在宅への退院支援と継続看護の現状と課題			
第9回：訪問看護に関する多職種との連携方法			
第10回：在宅での看取りについて（エンドオブライフケアについて）			
第11回：問看護ステーションの運営と人材育成			
第12回：在宅看護に関する国内外の研究論文の検討（在宅医療・在宅看護の動向等に関する内容）			
第13回：在宅看護に関する国内外の研究論文の検討（在宅療養者・家族介護者に関する内容）			
第14回：在宅看護に関する国内外の研究論文の検討（他職種の支援者に関する内容）			
第15回：在宅看護に関するまとめ（課題の明確化）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			
・訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル、日本看護協会出版会			
・訪問看護研修テキスト、日本看護協会出版会			

学生に対する評価

討議への参加度（討議の発表内容、発表回数）（10%）、プレゼンテーション・資料内容（20%）、
最終課題レポートの提出・内容（70%）

授業科目名： 療養支援看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：土井英子 山本智恵子 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標：健康障害をもちながらも、QOLの高い療養生活を送るために対象者の健康や療養生活の包括的支援について検討し、看護実践のあり方について探究することができる。			
授業の概要：地域での質の高い療養生活を可能にするための療養支援について、自己の看護体験を内省し、療養者中心の援助技術内容や教育的・包括的支援について検討する。			
授業計画			
第1回：健康障害と看護実践			
第2回：看護の基礎となる看護理論(ヘンダーソンの理論)			
第3回：看護の基礎となる看護理論(ナイチンゲールの理論)			
第4回：看護の基礎となる看護理論(パトリシア・ベナーの看護理論)			
第5回：事例検討(ニード論を基盤)			
第6回：事例検討(ナイチンゲールの理論を基盤)			
第7回：事例検討(ケアリングの看護理論を基盤)			
第8回：事例検討(セルフケア理論を基盤)			
第9回：多職種連携による包括的支援(チーム医療)			
第10回：多職種連携による包括的支援(地域医療福祉)			
第11回：多職種連携による包括的支援(医療連携ネットワーク)			
第12回：臨床と在宅における地域医療連携のあり方 検討(退院支援)			
第13回：臨床と在宅における地域医療連携のあり方 検討(アドバンス・ケア・プランニング)			
第14回：地域医療を支える看護援助(事例検討1)			
第15回：地域医療を支える看護援助(事例検討2)			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
篠田道子:多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、医学書院、			
学生に対する評価			
看護理論のレポートの提出（40％）、課題レポート提出・内容（60％）			

授業科目名： 看護技術特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山本智恵子 土井英子
			担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
①看護技術の定義を理解できる。			
②看護技術のエビデンスに関する先行研究をクリティークし、検討することができる。			
③実践事例についてのエビデンスを検討することができる。			
授業の概要			
病院・施設、学校、在宅での療養支援として必要な看護技術に関するEBNの検証を含めた新しい知見を探究する。援助技術全般にわたる看護援助技術のエビデンスについて検討する。			
臨床から在宅・学校での具体的な実践事例を基に、フィジカルアセスメント力、応用実践力を身に付け、エビデンスをもった看護実践を検討する。			
授業計画			
第 1 回：技術及び看護技術の定義の理解と検討			
第 2 回：看護技術の歴史的変遷の理解と検討			
第 3 回：看護技術の構成要素の理解と検討			
第 4 回：看護技術の構造の理解と検討			
第 5 回：看護技術のエビデンスに関する研究論文の検討（食事援助技術）			
第 6 回：看護技術のエビデンスに関する研究論文の検討（安楽確保の技術）			
第 7 回：看護技術のエビデンスに関する研究論文の検討（創傷管理技術）			
第 8 回：看護技術のエビデンスに関する研究論文の検討（与薬の技術）			
第 9 回：看護実践における経験的根拠の言語化（リフレクション）			
第 1 0 回：看護実践における経験的根拠の言語化（グループワーク・発表）			
第 1 1 回：実践事例のエビデンスの検討（療養生活援助）			
第 1 2 回：実践事例のエビデンスの検討（診療の補助の援助）			
第 1 3 回：実践事例のエビデンスの検討（フィジカルアセスメント）			
第 1 4 回：実践事例のエビデンスの検討（安全・安楽の援助）			
第 1 5 回：看護技術における課題と展望			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
・日本看護技術学会：看護技術の探究、看護の科学社			

- ・舟島なをみ：看護教育学研究、医学書院
- ・看護技術テキスト・サブテキスト

学生に対する評価

討議への参加度（討議の発表内容、発言回数）・講義後のレポート(50%)、プレゼンテーション(50%)

授業科目名： 成人看護支援特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：礪本暁子 塩見和子
			担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
成人期の発達課題と危機を理解し、健康上の課題を抱える社会的な存在としての成人を支援する能力を高める。健康障害直後から回復、終末期など、種々の理論を用いて、表出される様々な反応や現象を理論的に説明でき、解決のための方略を検討する。 1. 成人期の健康上の課題と支援のあり方を明確にできる。 2. ヘルスプロモーションへの支援の方向性を明確にできる。 3. がん患者と家族の支援が明確にできる。			
授業の概要			
地域で生活する人々の健康と医療に関するニーズを理解し、生活習慣病予防、在宅医療福祉への取り組みに関する先行研究の検索・クリティークをとおして、ヘルスプロモーション、慢性疾患による生活機能の障害の理解、社会的存在としての生活者への支援を探究する。 また、療養の場を在宅に移行するがん患者とその家族、ケアを提供する医療者等の先行研究を基に、がん患者とその家族が自らの力を発揮し、在宅での療養生活を継続できるような支援要請や在宅療養移行支援を探究する。			
授業計画			
第1回：成人期における療養支援とは（臨床現場や実習体験の発表）		（塩見）	
第2回：成人期の発達課題と危機（諸理論を使って）		（塩見）	
第3回：成人期の健康上の課題（統計的データを基に）		（塩見）	
第4回：ヘルスプロモーション（概念とモデル）		（塩見）	
第5回：生活習慣病とヘルスプロモーション（行動変容への支援）		（塩見）	
第6回：生活機能障害（セルフコントロールを要する事例）		（塩見）	
第7回：生活機能障害（老化に伴う生活障害の事例）		（塩見）	
第8回：在宅療養の課題（地域連携を中心に）		（礪本）	
第9回：がん看護領域における重要概念の探求		（礪本）	
第10回：がん看護領域におけるエビデンスの検討		（礪本）	
第11回：がん患者とその家族の療養体験の理解		（礪本）	
第12回：がん患者とその家族にケアを提供する医療者の役割		（礪本）	
第13回：在宅療養移行支援の探求		（礪本）	
第14回：緩和ケアと終末期ケアにおける看護支援		（礪本）	
第15回：がん看護における課題と展望		（礪本）	

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

日本健康教育学会：健康行動理論による研究と実践、医学書院、2019.

学生に対する評価

討議への参加度（討議の発表内容、発表回数）（20%）、プレゼンテーション・資料内容（50%）、
最終課題レポートの提出・内容（30%）

授業科目名： 育成看護支援特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：上山和子 四宮美佐恵 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 子どもの育成に必要な保健・医療・福祉・教育の視点から課題を捉え、多様な支援方法を探究する知識と技術を修得する。育成看護に必要な支援方法を検討することができる。			
授業の概要 子どもの育成に必要な保健・医療・福祉・教育の視点から社会的課題を分析し、看護職の役割を教授する。次世代の育成に関する問題に焦点を当て包括的な支援について探求する。			
授業計画			
第1回：育成に必要な概念（成長発達）		（上山）	
第2回：育成に必要な諸理論（エリクソン・ボウルビィ・ピアジェ）		（上山）	
第3回：保健医療福祉教育の視点からみた子どもの育成と課題（保健・医療）		（上山）	
第4回：保健医療福祉教育の視点からみた子どもの育成と課題（福祉・教育）		（上山）	
第5回：現代の小児医療の動向と看護職の役割		（上山）	
第6回：地域医療における小児の継続看護および家庭療養への支援		（上山）	
第7回：地域医療における小児のケアと家族支援		（上山）	
第8回：現代社会が抱える育児問題と支援の動向（育児の問題）		（上山）	
第9回：現代社会が抱える育児問題と支援の動向（支援制度）		（上山）	
第10回：次世代の育成に向けた健康教育		（四宮）	
第11回：次世代の育成に向けた健康管理		（四宮）	
第12回：思春期の健康教育		（四宮）	
第13回：思春期の健康管理		（四宮）	
第14回：育成看護に関する研究論文の検討		（上山）	
第15回：育成看護に関する研究論文の課題と展望		（上山）	
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等：舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版、医学書院 日本小児看護学会編集：子育て支援ハンドブック、日本小児医事出版社			
学生に対する評価：討議への参加度（討議発表内容、発表回数）20%、プレゼンテーション・資料内容（30%）、最終課題レポート50%			

授業科目名： 看護学課題演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：矢庭さゆり、 上山和子、金山時恵、土井英子 四宮美佐恵、木下香織、 栗本一美、井上真一郎、 郷木義子、磯本暁子、塩見和子 山本智恵子 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
①地域生活支援看護および療養支援看護について理解する。 ②支援状況と介入方法について理解する。 ③先行研究についてクリティークできる。			
授業の概要			
地域生活支援看護領域および療養支援看護学(学校保健分野を含む)における看護のあり方を探究する。先行研究を幅広くブラウジングすることで、視野を広げ研究動向を把握するとともに、論文抄読では論文を批判的に分析し、その研究課題に対する支援の状況と解決すべき問題点を明確にする。演習方法としては、複数の教員と学生間、あるいは学生同士の双方向の議論を行うことで看護学(学校保健分野を含む)の課題と展望を明確にする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 学習の進め方 (矢庭)			
第2回：地域生活支援に関する研究課題検討 (金山)			
第3回：高齢者看護に関する研究課題検討 (木下)			
第4回：在宅看護に関する研究課題検討 (栗本)			
第5回：地域包括ケアシステムに関する研究課題検討 (矢庭)			
第6回：学校保健に関する研究課題検討 (郷木)			
第7回：精神保健に関する研究課題検討 (井上)			
第8回：療養支援看護学領域の研究課題検討 (土井)			
第9回：療養支援看護学領域技術の研究課題検討 (山本)			
第10回：成人看護学領域の研究課題検討 (塩見)			
第11回：がん看護及び緩和ケアにおける研究課題検討 (磯本)			
第12回：母性看護ケア・包括的育児支援に関する研究課題検討 (四宮)			
第13回：小児看護ケア・包括的育児支援に関する研究課題検討 (上山)			
第14回：地域生活支援看護学・療養支援領域の課題と展望 (上山)			

第15回：まとめ	(全教員)
テキスト 必要時に提示する。	
参考書・参考資料等： ・先行研究の検索、幅広く国内外の論文を用いクリティークを行う。	
学生に対する評価： 討議への参加度（討議の発表内容、発表回数）（10%）、プレゼンテーション・資料内容(40%)、 最終課題レポートの提出・内容(50%)	